(様式第1号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和6年度 第1回芦屋市廃棄物減量等推進審議会
日時	令和6年9月18日(水) 13:30~15:15
場所	芦屋市環境処理センター1階会議室
出席者	会長：井上 尚之 副会長：千田 眞喜子 委員：多田 直弘、橋本 明美、法兼 茂子、山口 能成、桑田 敬司、岡田 圭司、 金山 成生(欠席)
事務局	大上市民生活部長、藪田環境施設課長、尾川市民生活部主幹、 谷野収集事業課長、御宿環境施設課課長補佐、永田環境施設課管理係長、 荒木環境施設課施設係長、林環境施設課主査、山城環境施設課課員、 林環境施設課課員
会議の公開	■ 公開 ----- □ 非公開 □ 一部公開
傍聴者数	0 人(公開又は一部公開の場合に記入すること。)

1 会議次第

- (1) 委嘱状交付
- (2) 委員、事務局の紹介
- (3) 会長、副会長の選出
- (4) 連絡事項
- (5) 協議事項
芦屋市の現状と廃棄物減量等推進審議会で行う内容について
- (6) 報告事項
ア 神戸市・芦屋市一般廃棄物の広域処理について
イ 芦屋市環境処理センター施設整備について
- (7) その他

2 提出資料

- ・資料1 第1回廃棄物減量等推進審議会資料
- ・資料2 神戸市・芦屋市一般廃棄物の広域処理について
- ・資料3 芦屋市環境処理センター施設整備について

3 審議内容

(事務局 永田)

委員の皆様のご発言につきましては、お名前が入った会議録として市役所1階の行政情報コーナーと本市ホームページにより公開することになりますので、御了承ください。

(井上会長)

それでは傍聴人について報告をお願いいたします。

(事務局 永田)

傍聴人はゼロという形になります。傍聴の方がおられませんので、このまま進めさせていただきます。

井上会長、議事の進行をよろしく願いいたします。

(井上会長)

それでは議事に入りますが、事務局から本日の会議の成立について報告をお願いいたします。

(事務局 永田)

本日の会議は、委員9人中8人の委員の出席を得ており、委員の過半数の出席がございますので、審議会条例第6条第2項によりこの会は成立しております。

(井上会長)

この審議会の役割や審議の進め方について説明、お願いいたします。大上部長。

(事務局 大上)

では、私のほうから御説明いたします。お手元、表紙カラー刷りの資料のほう、下半分に書いてあるとおりでございます。審議会につきましては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第5条の7というところに、市町村は、その区域内における一般廃棄物の減量等に関する事項を審議するため、廃棄物減量等審議会を置くことが規定されております。この法律を受けまして、本市の芦屋市廃棄物減量等推進審議会条例を制定いたしまして、この審議会を設けております。

こちらの審議会では、一般廃棄物の基本方針に関する事項についての市長からの諮問に応じて御審議いただき、答申をいただくほか、一般廃棄物の減量化及び再資源化の推進及び分別収集の実施、また啓発活動等について、それぞれに関することについて御意見をいただくこととなっております。

ここ数年では、指定ごみ袋制度の導入、プラスチック分別の方向性づけ、また、こちらの環境処理センターの老朽化に伴います新たな施設整備の方針の御確認など、本市の廃棄物処理行政における大きな取組、転換期となります大きな取組について多大なお関わりをいただけてまいりました。改めまして御礼申し上げますとともに、新たな委員様も加わっていただきまして、引き続きよろしく願いいたしたいと思っております。御挨拶も含めて御報告いたしました。よろしく願いいたします。

(井上会長)

ありがとうございます。

そうしたらですね、議題の芦屋市の現状と廃棄物減量等推進審議会で行き組む内容について、事務局、永田さんから説明をお願いいたします。

(事務局 永田)

それでは、私のほうから説明させていただきます。お手元に今と同じホッチキス留めしました芦屋市廃棄物減量等推進審議会資料と書いているものを出していただいでよろしいでしょうか。私のほうが説明させていただくのは、主にこの2年間、今後2年間でこの審議会に御審議いただきたい内容を中心に御説明させていただければと思います。よろしく願いいたします。

廃棄物減量等推進審議会の役割につきましては、ただいま大上より説明をしたものになります。

実際、芦屋市のごみ処理の流れですが、4ページ目と3ページ目、ページ上が3ページ

目、下が4ページ目という形になるのですが、もう既に御存じの方ばかりとは思いますが、簡単に説明させていただきますと、芦屋市の環境処理センターには芦屋市内の家庭のごみだけではなくて事業所ですね、今回、商工会から桑田委員に来ていただいています。ただ、事業所、お店のごみも環境処理センターに集まります。ただ、事業所、お店のごみにつきましては一般廃棄物に限定した形にはなるのですが、そのごみをここで燃やしたり、リサイクルに移るような処理をしています。ここはあくまで中間処理をしているところになりまして、リサイクルできる資源物につきましては、その後、再生事業者の工場に運ばれていくという流れになります。また、燃やした後の灰は最終処分場といいまして、兵庫県の各自治体は神戸の六甲アイランド沖に神戸沖埋立処分場というところがありますので、そこで焼却灰の埋立てを行っています。芦屋市の令和5年度の実績では3,888トン、埋め立てております。

下が生活系ごみと事業系ごみというふうな形で書いていますが、家庭系ごみと事業系ごみでは芦屋市は圧倒的に家庭系ごみが多い自治体になります。約7割が生活系ごみで、芦屋市全体の8割が燃やすごみになります。

芦屋市の特徴としましては、住宅都市ですので、家庭系、生活系のごみが多いのが特徴になっています。これらのごみを処理するためにどういった形でごみを減らしていこうとか、処理をしていこうとか、そういったことを計画したものがお手元にも置いてあります。芦屋市一般廃棄物処理基本計画になります。

この中で、ごみの減量、未来に向けてどういった形でやっていこうかということで、今の計画では5つの基本方針を立てまして、その方針を基に減量等を進めています。日常における環境意識の醸成、市民参画・協働の推進、多様な主体との連携、排出事業者責任の徹底、新施設の検討・構想、この5つの方針に基づいて様々な施策を実行していく形になり、施策について当審議会において御審議いただき、それに基づいて進めております。

このお手元の資料、1枚めくっていただいて7ページ目、8ページ目のところになります。ですけども、実際、計画に書かれている施策として、皆様にも御審議いただいた指定ごみ袋制度の導入は昨年10月1日に実施いたしました。事業系ごみの袋につきましても中身が見えるものでなければ駄目という形で指定しています。

また、昨年度の審議会ではプラスチックの分別をしようという形で方向性を検討していただきました。また、この後、お話ししますが、新施設整備計画の推進ということで、整備計画を今立てておりまして、プラスチックの分別、神戸市との広域化も含めて令和7年度をめどに施設整備、基本計画案を検討している状況です。このような形で芦屋市のごみ処理はこの計画に基づいて進めております。

では実際、令和5年度、芦屋市のごみの状況はどうなのかという話なのですが、8ページ目の表になります。令和4年度と比較して令和5年度はごみの減量が進んでおり、1人1日当たりの家庭系ごみ搬出量に関しましては、初めて500グラムを切っています。

次のページ、9ページ目、10ページ目のうち、9ページ目、これは令和に入ってから5年間の1人1日当たりのごみ排出量や1人1日当たりの家庭系ごみ排出量の推移です。前回計画は令和2年度、3年度の2か年で計画をつくっています。その中では当時は550グラムぐらい、1人1日当たりの家庭系ごみ排出量があったものが、令和5年度には500グラムを切っていますので、当時と比べると約10%近くは1人当たりで減っているというのが今の現状です。

今までも啓発の必要性などを、この審議会でご意見いただきましていろんなことを実施してきましたが、大きなこととしてはやはり指定ごみ袋制度の導入による効果です。これが10ページ目の表になります。昨年の10月から始めていますので、まだ1年間たっていないので、11か月間、10月から8月末までの11か月間を指定ごみ袋導入前と導入後、それぞれ11か月間同士で比較したものです。そこで1人1日当たりの家庭系ごみ排出量を見ていただきたいんですけども、指定ごみ袋導入前は517.1グラム、1人1日に出すごみが517.1グラムだったところが、指定ごみ袋を導入後は478.8グラムという形で明らかに減っ

ています。指定ごみ袋導入することで、目に見えて燃やすごみは減るという効果が出ています。

市民の方にも実際にどう変わったのかをお知らせする必要があると考えておりますので、10月から9月末までのデータが全部出そろってから広報あしや11月号で1年間はどうだったのか。今はどんな問題がありますというようなところを広報する予定です。

11か月たって、最初のほうはもちろん1か月、2か月、3か月、当然減ってたんですけども、11か月たってもやはり順調にごみは前年と比較すると少ない状況にありますので、そういった意味ではここで御審議いただいた内容、啓発という意味でも大きな効果があったと考えております。

次、11ページ目、12ページ目になります。大きな方針につきましては、芦屋市一般廃棄物処理基本計画で記載しており、それぞれ1年間、計画に基づいて1年間の実施計画を毎年つくりまして、それもこの審議会の場で御意見をいただいております。

今年2月の審議会で御意見をいただいて、令和6年度の実施項目が4つ、ごみの減量化と再資源化の推進、プラスチックの分別推進の課題整理と市民周知、ごみに関する広報手段の充実、危険ごみによる火災事故等の撲滅、この4つが今年度の重点的な項目です。1番のごみの減量化と再資源化の推進につきましては、コロナが終わったというのもあるんですけども、今年度は夏休みの親子見学を再開して、初めての取組にはなるんですが、芦屋市、この4月から民間企業と協定を結んでまして、芦屋市のペットボトルは全てサントリーさんのペットボトルに生まれ変わっていきます。そのサントリーさんに来ていただいて、実際ペットボトルがどういうふうリサイクルしていくのかというような課外授業をやってもらったり、紙ごみがやはり多いというのが委員の方からも御指摘いただいておりますので、そういったものが紙としてリサイクルできるのかどうかとか、そういったことを夏休み親子見学ということで小学生向けにさせていただきました。

また、11月頃、紙ごみや古着を持ち寄る、要は家にあるものを持ってきてリサイクルできないかというような持ち寄りイベントを考えております。ほかには先ほど言った11月号には特集記事として、何がリサイクルできる紙で、何がリサイクルできない紙なのか。これはやはり市民の方からよく問合せあるものを中心にイラストで分かりやすく載せて、意識をしていただこうと考えております。

プラスチックの分別推進と課題整理と市民周知というところにつきましては、令和6年2月、そこで芦屋市がプラスチックを分別していく方針ですよということを広報あしやでお知らせしております。また11月号でも同じく記載していきます。このプラスチックにつきましては、環境施設課と収集事業課で、まだ1回にはなりますが勉強会を実施しております。今後も勉強会を実施しながら、プラスチックといってもいろんなプラスチックがありますので、どこまで分別していくのかとか、そういった形で市民の方に周知すれば分かりやすいのかとか、そういったところとかも勉強していきたいと思っております。

ごみに関する広報手段の充実ということで、今年度からごみ分別アプリも導入しております。芦屋市の町別にごみカレンダーが表示されますので、例えばお住まいの町が岩園町なら岩園町選んでいただくと、プッシュアップ通知で、岩園町のごみカレンダーが出てきて、今日は何の日ですとか、あしたは何の日ですとかが目で見えるようになっているほかに、例えば台風の荒天時に今日は収集ができないですよとか、もしそういう特殊事情があればプッシュアップ通知するようなことができるアプリを導入しています。このアプリにつきましても登録者が増えていくように今、啓発をしていこうとしております。

4つ目として、危険ごみによる火災事故等の撲滅ということで、広報あしやに記事を定期的に載せるようにしています。やはり年間通してスプレーが出てきたり、今の時期で言えば、キャンプされた方が残ったガスバーナーをそのまま捨てられるケースがあったりして、大火災につながる可能性があります。今のところ事故はないですけども、引き続き、危険性を啓発していきたいと考えています。

このような形で広報あしやの啓発が中心になりますが、今年度、重点的にやるべきこと

について取り組んでいる状況です。

最後になりますが、この2年間において審議会で審議していただきたい内容について、主な内容を記載させていただいています。

1つ目ですが、一般廃棄物処理基本計画の見直しになります。指定ごみ袋導入後のごみの減量の話になります。紙ごみのうち新聞紙が減っていますので、リサイクル率の目標達成が現実的には難しくなる部分もありまして、状況に合わせて数値目標の設定とか、どういった施策をしていくかをこの計画に反映させる必要があります。前回は、市でまとめた計画を審議会で諮るだけではなく、それぞれの立場で委員の皆さまに集まっていただいていますので、一緒につくっていくほうがいいのではないかという御意見いただきまして、委員の皆さまと議論しながらつくり上げたものになります。次回も同じような形で見直しができたらと思っています。

見直しすべき内容ですが、次の計画の時点では施設整備基本計画が出来上がっている状態になりますので、施設自体はまだ建設されていませんが、施設が建て終わった後、こういったリサイクルができるんじゃないかとか、あとはプラスチックの分別、開始時期、あ分別の対象、この辺りも市によって違ってしまっていて、少しでも汚れていたら燃やすごみで取り扱う自治体もあれば、洗って捨ててくださいというような市もあります。その辺り、それぞれの立場から、これは現実的ではないんじゃないかとか、そういったところを含めて意見を出していただけたらと思います。

あとは新たな分別や減量を徹底させるための方策で、今回、指定ごみ袋制度を導入し効果は出ていますが、ほかにもこんなことができるんじゃないかとか、計画の見直しのときに合わせて検討していただければと思います。ですから、プラスチック分別の具体化が大きなテーマかなと考えております。

また、リサイクルの推進について、今後、施設の建て替えに伴い、環境処理センター敷地内にあるリサイクル棟を撤去することとなります。リユースフェスタとって、今まで家具とか自転車を直して市民の方に無償で、自転車は保険代のみいただき、引き渡しているイベントを実施していましたが、工事でなくなってしまいます。建て替えるときは場内が工事車両などでスペースが埋まるため、イベント実施が難しいんですけども、建て替え後も含めてリサイクルの推進として、イベントに替わるようなものがないかとか、場所がなくてもできることについて、2年間の中で方向性が見出せたらと思います。そういったところが主な協議内容になると考えております。

簡単ですが審議会の今までお話いただいた内容や、これから協議していただきたい内容の説明は以上とさせていただきます。

(事務局 谷野)

続けて収集事業課長から一部資料の訂正をお願いさせていただきたいと思います。

先ほど永田より御説明差し上げました緑色11ページ、実施計画の取組状況の段、上から4つ目、危険ごみによる火災事故等の撲滅の2行目、令和6年は危険ごみによる事故はなしとなっているんですが、令和6年度の誤りでございます。残念ながら令和6年1月9日、10日と2日にわたって車両火災が起きているので、これは年度ということで改めさせていただきます。お願いします。

(井上会長)

ありがとうございました。

そしたら今のお二人の御説明に対しまして、何か御質問、あるいは御意見等ありましたら挙手お願いします。山口さん。

(山口委員)

いつも先頭を切って質問するのが私の使命だと思っています。

まず3ページ、幾つかあるんですけども1個ずつ行きます。3ページにこのフェニックスセンターのデータがあります。1つ付け加えてほしいのがありまして、これは要望です。あと何年もつか。私の知る情報では二十何年だったかな、それはやっぱり入れていただくと、もうあと20年たったら捨てられないんだという意識が非常に僕は危機感を持ってできると思うので、ぜひともそのデータを入れてほしいというのが1点でございます。これは要望です。

それから8ページに、プラスチック分別の方向性を検討というのがあるんですけども、これは前回のこの審議会でプラスチックの分別をすると決まったと私は理解してるんですけど、方向性を検討した結果、するという結論が僕は出たと理解してるんですけども。

(事務局 永田)

プラスチックの分別はする方向性で結論が出ています。今後、協議していただきたい内容として具体化と書いています。

(山口委員)

8ページですね、リサイクル率が減っているんですよ。これはやっぱり検討すべき項目の1つかなという。これは私たちのグループで集団回収を何とか増やそうということで今やっているんですけども、年配の方が多くて難しいんですけども、その問題と。

もう一つ考えるのは、プラスチックを分別するとリサイクル率が増えるんじゃないかというのが私の頭の中にあって、それはそれで増えると思うんですけども、やはり今の現状では恐らく今年も来年もこのリサイクル率が上がるということはなかなか難しいんで、この原因分析、さっきの新聞の話がありましたけれども、何か手を打たなきゃいけないかなと私自身は感じております。これは今後の検討事項としてやってはどうかと思います。

それから最後に12ページ、取組が1から4まであるんですけども、私の小さな提案ですけども、広報手段の充実と書いてありまして、今、私の手元には芦屋市の広報紙があります。ポンベとかあの辺が出ているんですけども、1つリクエストとしては、芦屋市は実は「あしやトライあんぐる」という番組があるんですけど、これ、ユーチューブにちゃんとしたページがありまして、ユーチューブの中に芦屋市広報番組、公式というのがちゃんとあるんですね。この中で「あしやトライあんぐる」の過去のデータ全部見れて、3月には林さんが出ておられまして、いろいろと説明しておられたんですけども。この登録者数が717名、今日の朝現在。私が2回押ししましたんでちょっと増えているとは思いますが、コンテンツが201、これだけあります。ところが西宮市、同じようなものがありまして、ユーチューブにインターネットテレビというのが西宮市にはあります。この登録者数は7,230人。人口は40万ちょっとです。芦屋市が9万4,000ですから。考えると、ちょっと芦屋市はまだまだ、せっかくやるので。これは何でかという、暇なときに見れるんですよ、これで、テレビだと限られるじゃないですか。若者もいつでも見られるんで、こういうものをしなきゃいけないだろうと、何かいろいろサポートする。

それで私の提案。芦屋市の広報紙が物すごく変わったと私は今思ってる。何変わったかってQRコードが全部ついている。だからQRコードをこれがかざして映せば全部中身は芦屋市のホームページとリンクしてますので、詳しい内容が今、見れるようになってるんですけども「あしやトライあんぐる」がない。だからすみませんけど、どこかでいいですから、絶えず入れていただくと「あしやトライあんぐる」が24時間、いつでも好きなときにこの番組が、非常に市長以下、いろんな方が出ておられますので、僕は非常に動画というのは説得力がありますので、ぜひともこの芦屋の広報紙にQRコードを入れていただいて、いつでも見れるというふうなことにしてほしいなと思っております。

最後に、これは今後の話なんですけども、新たなリサイクル事業と書いてあるんですけども、今、自治体のやってる事業は何かという、もう自分たちでリユースとかリサイク

ルするんじゃないなくて、一般の業者と組んでやろうということが非常に今、増えてます。ですから恐らく私はそういう新たなリサイクル事業というのは、もう芦屋市が困るんじゃないなくて、そういう業者のほうで非常にそういうのが進んでますので、お互いコラボしてやるというのが非常にいいかなということです。

以上でございます。

(井上会長)

どうもありがとうございました。

4点言っていただきました。

(事務局 永田)

まず最初のフェニックスがいつまでもつのかというところになってくるんですけども、なかなか芦屋市だけでどうこうはできないんですけども、今、公式に言われてるのは令和14年です。ただ、もちろんフェニックス事業としても同じところを使い続ける、できるだけ工事とかしながら長く使い続けたいというところですので、この辺りにつきましてはこちらも情報が分かり次第、周知をできたらと思います。

延命も計画されていますので、その情報も含めてお伝えしていけたらと思います。

プラスチック分別を検討していただいた結果、分別する形になっています。分別はするところまで決まっていますので、今後どのようにやっていくか審議会で御協議、御審議いただくこととなります。

次、広報の充実ですね。全体を取りまとめている広報国際交流課がありますので、審議会からの意見を伝えながら、ユーチューブに限らず若い層が何かごみについて関心を持ってもらえるように、今後も課題になってくると思っていますので、次の計画のときにも含めていろいろ検討していきたいと思えます。

最後、リサイクル事業は、今は大体どこも民間とやっているところが多いです。ただ、民間はプラットフォームの提供で、実際家具を直して出品するのは市役所とか、そういったところもありますので、民間が使えるかどうかも含めて、今後どのようなことができるのか。市役所が直接事業を行う時代も終わりつつあります。ただ、リサイクル、やはり市民の皆さんに、意識を持ってもらうことが大切ですので、そういった中で何ができるのかは、現実的なども含めて、この中で御審議していただけたらと思っております。

山口委員、御意見ありがとうございました。

(井上会長)

山口さん、この芦屋市の「トライあぐる」というユーチューブの番組ですかね、これはどうして知られたんですか、広報か何かあったんですか。

(山口委員)

いえいえ、自分で調べて。

(井上会長)

そうなんですか。これは別に宣伝しているわけじゃない。

(事務局 永田)

「あしやトライあぐる」はそれぞれの担当の課、我々でいうと環境施設課が特集を組みたいときに番組をつくる形になりますので、例えば指定ごみ袋制度を始めますよとか、リサイクルを推進したいことがあるときに、それぞれの課で出すというような形になります。広報を取りまとめている広報国際交流課には、そういった意見も伝えながら。我々は「トライあぐる」を使うとか、アプリを使うとか、いろんな広報手段を利用して、少し

でもごみに関することが市民の方に伝わるように努力していきたいと思っております。

(井上会長)

ありがとうございます。だから広報に「あしやトライあぐる」を載せてほしいということですね。

(山口委員)

QRコードを。

(井上会長)

QRコードをね、はい、そういうことですね。

ほか何かありますか、いかがでございますか。

次に行きます。神戸市・芦屋市一般廃棄物広域処理について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 御宿)

この件に関しては、御宿のから説明させていただきます。

もう既に新聞報道などでも出ているところもありますので、御存じの方もいらっしゃるかも知れませんが、今、お手元に置いてありますとおり、この9月19日、明日から市民意見を募集するところまで、神戸市さんとの協議の中で積み上げることができましたので、私からは簡単にこれまでの経緯と、連携内容を中心に説明させていただこうと思います。

経緯につきましては、昨年9月議会において高島市長が神戸市との連携を考えるということを発表されて、その後、環境施策の連携ということを神戸市に申し入れました。その後、芦屋市の焼却施設の耐用年数の関係とかもございますので、まずはごみ処理の連携ということを優先的に神戸市の事務方と協議を重ねてまいりました。その積み重ねていった中で環境面の効果とか財政的メリットなどが一定程度確認できましたことを受け、この6月議会において高島市長が改めて神戸市との広域連携実現に向けてさらに進めるために、広域連携に必要な、ごみを神戸市に運ぶための中継施設の整備を検討しますということを発表したところです。

この施設整備の具体的な説明は、後ほど担当のから説明させていただきます。

神戸市・芦屋市一般廃棄物の広域処理についてというタイトルの資料の中の2番目が広域業務の概要ということで、神戸市さんと芦屋市が連携する具体的な内容を端的にまとめたところにはなるんですが、もう一ページめくっていただきましたらカラーになっているところで、図のような絵柄が書いてあるところのページ、こちらがイメージとしては分かりやすいのかなと思いますので、これを見ていただきながら神戸市との連携内容の説明をさせていただきます。

まず連携に当たって対象となるごみは何なのかということにつきましては、可燃ごみを中心に運ぶということになります。芦屋市の欄に書いてありますとおり、芦屋市内のごみについては広域連携した後も環境処理センターに一度全て集めるということになります。環境処理センターに集まったごみを大型車に積み換えて、神戸市のポートアイランドにある港島クリーンセンターというところへ運ぶ流れになります。この図柄では神戸市さんには3つの焼却施設がございますので、3つの焼却施設を掲載させていただいておりますけど、主に運ぶのはポートアイランドの港島クリーンセンターというところで、そこが例えばメンテナンスであるとか、何か施設トラブルとがあった場合などにはほかの2つの焼却施設に運ぶ可能性があるということになります。

運搬の配慮ということで、基本はこの施設からごみを運搬するために大型車が出たら、有料道路を使いまして南芦屋浜インターチェンジから、その後、港島、ポートアイランド

のまで運ぶという流れになりますので、今回、連携に伴って芦屋市内の住宅地というのは基本通らないという形で進めさせていただきます。

それから、最初に申し上げましたとおり、市内のごみは一度、芦屋の環境処理センターで全て集めるということになりますので、市民の皆様のごみ出しについては基本は今までどおり何も変わらない形になります。パイプライン御利用の方につきましても、パイプラインを今までどおり使っていただけますし、持込みごみについても連携が始まった後も芦屋市の施設へ持ち込んでいただくという流れになります。

災害のときとか、いざとなったときに焼却施設がないと困るんじゃないかというようなことが、これまでもいろんなところで説明してきた際に御指摘をいただいたところなんですけれども、例えば今年頭に能登半島の震災なんかもありましたけれども、あれぐらい大規模な災害になってきますと、もはや単独の市で処理し切れるというような量のごみが出るわけではなくて、本当に県外も含めた広域で処理をしていく、そういったことをしないと処理し切れない、復興が間に合わないというような形になってきますので、それらにつきましては国のほうで広域連携のところの調整をする枠組みがございますし、例えばもう少し小さな県内の災害であれば、県が調整して連携するような枠組みが整えられております。それ以外にも芦屋市単独でも大栄環境さんという、今、施設の中でも携わってくださってる企業になるんですが、そういったところの企業と協定を結ばせていただいて、災害があったときに災害廃棄物の処理をいち早く処理していただけるような枠組みなども設けております。安定してごみ処理がどんな状況でもできるという体制は整えているところで

す。
次に、環境面の効果と財政的なメリットというところについて御説明させていただこうと思います。資料でいきますと最初の1ページのところの、1番、ごみの広域処理についての基本的な考え方というところのアスタリスク2つ書いているところの1つ目のアスタリスクのところは環境面の効果、2つ目のところが財政的なメリットというところになるんですけれども、ここで記載していますとおり、環境面の効果としましては、神戸市の港島クリーンセンターでごみ焼却をしますと、芦屋市でごみ焼却して発電するよりも約2倍程度発電量が多くなるということで、年間で言うと3,200世帯分の電力を生み出すことができるということになります。結果的に発電所の電力需要を抑制することにつながりますから、環境にとって効果があるというような取組になります。

財政的メリットでいきますと、芦屋市が単独で焼却施設を建てるというときよりも、広域連携に伴う中継施設を建てるということに変更したほうが単年度で比較しますと約40%財政の支出抑制ができるということになります。もちろん焼却する場所は神戸市さんの施設になりますので、いわば施設の一部を間借りするみたいな形になりますから、将来的に神戸市さんの施設に建て替えが生じた場合は、もちろん一部建設の負担金といったことでこちらから幾らかをお支払いするというにはなるんですけれども、たとえそれを払ったとしても、40%の削減効果とまでいかなくても、長期間になればなるほどメリットが出るような仕組みになっております。特に今は建設単価、物価高騰とか、皆さん、もう既に肌身に感じておられると思いますけれども、建設単価とかとても高騰しているということもございますので、芦屋市が小さな施設を建てるよりは、大きな施設のほうが建設単価も安くなるというようなところもございます。長くなればなるほどメリットが出るというような仕組みになっております。

これらのことを簡単にまとめたものが、今、お手元に置いてある資料になりまして、これはパブリックコメントですね、皆さんから御意見いただくための芦屋市と神戸市で詰めて考え方をまとめた資料になります。資料に書き切れないことについては、市ホームページでもある程度、掲載しているところがございますので、それにつきましては4ページ以降にホームページにQRコードを読み込ますような仕組みにしておりまして、ここでさらなる内容を見ていただけるような流れになっております。

パブリックコメントの期間としましては9月19日から10月28日までという形で、この機

会にパブリックコメント通じて市民の皆様幅広く知っていただくとともに、併せて様々な御意見をいただきたいというふうに考えております。

今後の流れですけれども、パブリックコメントが終わりましたら、進め方としましては今年度中に広域連携の議案を議会に提出します。これは芦屋市、神戸市、両方ともそれぞれの市に提出する流れになっておりまして、そこで議決された後は実際に中継施設とか資源化施設の整備をさらに進めていくというような流れになっていきます。

広域連携の簡単な説明については以上になります。よろしく申し上げます。

(井上会長)

ありがとうございました。

ただいまの御説明に対し何か御質問、あるいは御意見があったらどうぞ。

(山口委員)

私は、ほかの視点で考えているのですが、ぜひこういうものはどんどんやってほしいと思っています。単なるごみ処理だけではなくてね。何でかというところ3つの原因を考えています。

1つは、日本の高度成長時代に計画された、我々が今、パイプラインの関係で非常に困難な状況でいろいろやっていますが、それを維持するのはいかに大変かと、本当に市の方も大変な努力をされて、維持されているわけです。ですから、造るときはいいが、お金も借金してやるでしょうけど、造った後の維持費まで考えてやらなきゃいけないし、もう高度成長時代みたいに箱物は造らないと。むしろ効率化といっているんなどこと連携しながらやっていく時代に僕は入っていると思います。やたらめったら造る時代は終わったというのが僕の認識です、マクロ的に。

それから2番目は人口減です。芦屋市は30年後には7割の人口で、今より3割減るんですね。当然ごみも減ります。そうなったとき当然税収も落ちます。そういう状態になることが分かってるわけです、これは統計的に間違いなく。そのときに今どんどんお金をじゃぶじゃぶ使って、未来の私たちの子孫に対して大きな借金を残して、人口減になったときどうするんですかということも1つ考えなきゃいけない。

それからもう一つは、大地震がある。南海トラフが起きると。芦屋市は阪神・淡路大震災で1,200億円の借金抱えて、山中市長はじめ、大変な苦勞して、今500億円を切ったんですかね。借金を努力して減らしつつあるのに、南海トラフが来たら恐らく同じような借金をする状況になるかもしれません。そこを考えると、本当にこれから我々が税金を使うときには慎重に考えて、もっと知恵を出してやると。その1つが僕は芦屋市の今回の広域化じゃないかというふうな理解をしていますので、ぜひともマクロの視点で捉えて考えてほしいなと思っています。

以上です。

(井上会長)

ありがとうございました。

ほか何か、御意見、御質問あったらどうぞ。

(岡田委員)

さっきの議題のところで山口委員からのリサイクル率が下がっていることについて考えたほうがいいんじゃないかというご意見がありましたが、その答えはもう出てると思うんですが、いかがでしょうか。

(事務局 永田)

先ほどの山口委員からのリサイクル率、1つは紙ごみ、新聞が減っているというのはあ

りまして、集団回収が減っているというのが1つあります。

もう一つ、芦屋市だけの特徴なのか、他市のデータが出てないんで分からないですけども、空き缶とか不燃ごみが減っているんですが、盗まれている可能性も否定できないというところですね。市民の方からの通報で、空き缶とかフライパンを取りに来る人がいるとか、そういった通報電話が増えています。こちらも当然パトロールをしていますし、私と御宿とかで一緒にごみステーションを回ったりもしているんですけども、缶、アルミとかスチールなどの不燃物の売却額がすごく高額になっています。そのため、そういったことが続いているんじゃないかと。芦屋市だけのデータですので、確実ではありませんが、原因として今考えているのはそういった点もあります。

ただ、やはり大きなところは、リサイクル率で、集団回収の量が減っていますので、御家庭から出る新聞紙とかが減っているんじゃないか。指定ごみ袋を導入したことでペットボトルが分別されて、ごみステーションに出されるペットボトルが増えたり、紙資源も前年と同じぐらいの数量を維持できていますので、指定ごみ袋の効果で、全体としてそこまで減少していないとも言えますが、紙ごみの問題。もう一つは缶とか、金属系のごみの持ち去りの問題、この辺りが問題ではないかと考えております。

(井上会長)

その持ち去りね、それは業者が取りに来る、それとも個人で来て、売りに行くんですか。

(事務局 永田)

そこは業者か個人なのか、こちらでは分からないんです。通報があるのは、個人の方が自転車に来て、後ろに載せて走っていくから、家の周りをパトロールしてほしいとか、のお声があります。もちろん我々も行きますし。たまに通報があるのは車で来て載せていく。個人なのか業者がされているかまでは分からないところがあるんです。条例で持ち去り禁止という形になっていますので、その条例に基づいて我々も追いかけてはいるんですけども、ずっと同じ場所にいないので、なかなか難しいところもあるというのが現状です。

(井上会長)

今お話では、ある程度は誰がやっているかというのと、同じ人がやっているですね。

(事務局 永田)

撮れた写真を見る限り、大体、似た背格好であるものの、同一人物かどうかの特定はなかなか難しい。この2年ぐらいはそういう問題が多いですね。特に去年ぐらいから市民の方からの声としては増えてきた感じは受けています。実際の芦屋市のデータ上も缶が約85%なんですけど、世の中からそんな缶が一気に85%、15%も減るというのは現実問題考えにくい。もちろんコロナが終わったので、皆さんが外に飲みに行かれるとか、そういったところもありますので、一概にそれが全部ではないんですけども、顕著に今、家庭から出る量が減っているというようなところはあります。

(井上会長)

ありがとうございました。
何かありますか、法兼さん。

(法兼委員)

缶、取っていくおじさんとか、写真撮ったらいいんですか。

(事務局 永田)

対策するにしても、危ないので、市民の方は近づかないでくださいと言っています。こちらはパトロールしていますので、やはり現場を押さえないといけないですので、デジカメで撮影し、あと現場押さえ、その現場に我々が行ったりしています。実際パトロールで我々が注意しています。よく見かけるのであれば我々に言っていただいたら、その町の缶の日を中心にパトロールするようにしています。

(法兼委員)

自治会で回収をしているので、缶の日じゃなくて、自治会の回収のときに段ボールですとか、紙ですとか、古着とか、缶とか分けて、月に2回、やってもらうんですけども、結構その日を皆さん知ってらっしゃるのか、缶を集めに来られる方がいるんです。大きな自転車にいっぱい缶積んで帰る方がいるんですけど。そういうのを写真撮ったほうがよかったです。

(事務局 永田)

市民の方に危害があったりしたら危ないので、近づかないでくださいねとこちらは伝えているところです。特に芦屋市は平地の部分では自転車で行動していることが多く、通報が多いというのは今、特徴としてはあります。

繰り返しになるんですが、危ないので、市民の方は注意とかしないでくださいねと伝えています。マンションにつきましては、敷地に入ると不法侵入になりますので、市では声がかけれない部分になります。マンションのほうから不法侵入という形で警察等に通報してもらっているケースもあるんですが、市が聞く限りではマンションよりは普通の一軒家の家庭ごみステーションの被害が多いですので、これからも引き続きパトロールしながらというところでね。

ただ、それがリサイクル率にどこまで影響しているのかは分からないですが、今後、次の計画の見直し時に、どういったことができるのか検討していきたいと思っております。

(井上会長)

多田委員、どうぞ。

(多田委員)

市民委員で参加していますので、あくまでも一市民の意見でございますが、我々のところも子ども会で、アルミ缶出されていますけど、結局ね、集めに来る時間が例えば朝出しているのに昼過ぎに来たりとかあります。だから理想を言えば、出す時間と回収する時間が短ければ短いほど、取りに来れないということになりますよね。この辺りは何か工夫するとか。

それと僕はね、罰則規定というものがなければ犯罪というのは絶対なくなりません。ですから、その辺りね、カメラで撮ることも僕はいいことだと思います。悪いことをしているということに対して悪いということをはっきり言うというのは、僕はある意味、いいことだと思います。

それとコロナのときはね、缶詰、たくさん食べました。今は食べなくなってきました。それとね、缶コーヒーとか缶の飲物、あれ、結構ユーチューブなんか見ていると何が入っているか分かんないということで、健康を意識している人は缶コーヒーなんかまず飲まなくなってきました。これはあくまでも市民感覚でしゃべっていることでね。

それと不燃ごみがなぜ減ったか。答えは1つです。不燃ごみに使う指定袋がいっぱいにならないからです。私も10月からの袋がまだそのまま使用しています。袋がいっぱいにならないから出さない。この辺りは、あくまでも市民感覚の意見を言わせていただきました。

(井上会長)

ありがとうございます。

私、意見言いますと、その取っていくというおじさんなんかの場合ね、これ、窃盗罪にも当たるんじゃないかと思うんですけどね。盗っていったお金に換えてしまうというのはね。あまりひどいようやったらもうカメラ設置するとか、そういう手もなきにしもあらずですから。

(事務局 永田)

条例ではもう既に違反ということで、既に罰則規定はあります。芦屋市のデータではそうなんですけども、他市の分の分析も含めながらリサイクル率につきましては今後も検討していきたいと思っています。

コロナによって生活が変わって、今までは自宅でお酒飲まれたり食べられたりしてたことが、お店も全部再開されて大阪でもすごい人が増えているというのは、それだけ外に皆さんが出るようになっていきますので、そうなるとう当然、家で飲まれるお酒の量は減ってくると思っています。そういったところもありますので、ほかのデータを追いかけてながら、今後の計画を考えるとときには、そういったこの分析とか、またそれに対して何ができるのかとか、またこの2年間の中で御審議いただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

(井上会長)

はい、ありがとうございました。

(事務局 大上)

会長。

(井上会長)

はい、どうぞ。

(事務局 大上)

誤解があってはいけないので、先ほど法兼委員や多田委員からいただいた子ども会や自治会で集団回収を利用いただいているところで、例えば空き缶を業者が盗っていくというのは、報奨金の基ですとか買取金額の経費が減ることですから、本当にそれはだめなことです。事務局から申し上げたとおり、条例で決めてパトロールもしています。危ないので皆様御自身ではあまり近づかないようにということで、こちらでパトロールしてますというのは、行政回収の中の缶の日とかを中心にしていて、それぞれの地域の再生資源集団回収の日に合わせて全てパトロールするのは実際には難しいところです。地域の方の財産が横取りされているということですから、危ないのは危ないので、そこは気をつけていただきながらになりますが、自治会とか、子ども会等で契約をしてる業者さんが来るまで、どなたか待っておいていただくとか、何かね、やっぱりそういう対策も必要かなと思っています。

市は知りませんということではないんですが、全てのカバーは難しいかなと思っていますので、よろしく願いします。

(井上会長)

法兼さん、何かありますか。

(法兼委員)

うちの自治会ですと、前だと半日、割と朝からお昼過ぎに取りに来られるんですけど、長い時間、この時間とこの時間までの間に出してもらってもいいですよということだったんですけども、今ちょっと時間を短くして。

(事務局 大上)

車がね、なかなか。

(法兼委員)

取られる時間が少しでもというふうな形では工夫はしております。

それと集団回収が減っていますということなんですけれども、うちの自治会でもそうなんですけれども、やっぱり紙ごみが非常に減っています。雑誌とかがやっぱりすごく少なくなってきた、今までだと紙ごみが結構あったんですけど、新聞とかも減っていますし、雑誌とかは減っています、段ボールはやっぱりたくさん出ますけれども、ほかの紙ごみがすごく減っているの、その分で減っていますというのもあるかも分からないです。

(井上会長)

ありがとうございました。

(事務局 大上)

うまくリンクして分析していければと思っております。また情報共有お願いいたします。

(井上会長)

よろしくをお願いします。

ほか、何かございますか。よろしいですか。

では、次の議題でございますですが、芦屋市施設整備計画ですね、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 荒木)

はい、私のほうから説明いたします。

1枚のみの資料の1、施設整備基本計画で、(1)の芦屋市環境処理センター施設整備基本計画検討委員会について、表のとおり第1回から第6回までの内容はそれぞれの議題等に記載しておりますように、これまでの当審議会において報告・説明をさせておりますので、裏面に移り、第8回3月15日に開催した分について御説明させていただきたいと思っております。

資料1-5、環境計画をお願いいたします。第6回、第7回の検討委員会による修正が必要になった箇所を赤字で見え消しを行っております。当該箇所は2ページの表現の修正、そして少し飛び7ページ以後の段落番号や表現の修正を行っております。

次に、災害対策計画、資料2をお願いいたします。4ページの(4)耐震対策、第7回では耐震安全分類として、構造体や非構造部材の区分の説明書きをしておりましたが、これを修正し、プラント施設と管理施設が該当する施設種類とそれに応じた分類を記載しています。

次の5ページに関しての②確保すべき安全性の目標について、整理が不十分であったため修正を行い、対象施設と対象内容を区分しております。

次の6ページ、始動用発電機と燃料保管設備を分割して整理を行い、薬剤等の備蓄に関する根拠を追記しております。

続いて資料3、事業方針計画、1ページ目の表1の記載順序について、第7回まではPFI・PPP、公設公営という記述順序をしておりましたが、これを公設公営、PPP・

P F I 方式に変更しております。

3 ページも同様に修正しております。

続いて4 ページについても表3、こちら民間事業者と発注者のリスクの分担が順番を入れ替えて、発注者、民間事業者という順に表の修正を行っております。

続いての5 ページについての下の部分についても同様に記載順序を入れ替えております。

次の資料4、第1回から第7回までの検討委員会のまとめとしておりまして、災害対策計画と事業方針計画は先ほど修正した修正内容を反映させていただいております。

表紙めくっていただきまして目次、おおむね検討委員会の開催順序で整理しております。今後、項目や内容の整理なども必要になるかと思いますが、一旦まとめております。

資料が多いため、詳細説明は省略させていただきますので、御清覧をお願いいたします。

次、資料5の多面的価値の創出をお願いいたします。これまでの意見等を集約したものになりまして、右側の運協・審議会、検討委員会の開始以降、意見、要望をいただいております。特に運協、地元としての意向集約までには至っておりませんが、以下の列記とさせていただきます。

続きまして、基本計画の策定スケジュール、A3の資料6、お願いします。計画の各項目、各年度の主要検討事項を委員会等のスケジュールを横バーで示しておりまして、令和5年度は実施した内容・日程を記載しております。令和6年度は項目(14)事業方針計画、(15)P F I 事業可能性調査の検討を行うこととしております。

表の下の検討委員会は、第9回から第11回までの3回を予定。その3つ下の生活環境影響調査は11月に終了、12月に調査結果縦覧、来年1月の第11回委員会で基本計画案としての取りまとめを行った後、パブリックコメント、市民意見募集を行うスケジュールを予定しております。

なお、次の今後の進め方に関わることですが、先ほどの神戸市との広域連携に伴い、現時点ではこのスケジュールの修正が必要になります。

最後のメーカーアンケートですが、議事としては非公開の取扱いとなっております、説明は控えさせていただきますので、御理解のほどお願いいたします。

最後に今後の進め方ですが、次回の第9回を10月3日に開催を予定しておりまして、当初7月中旬の開催としておりましたが、先ほどの神戸市との広域連携の協議が進捗したことに伴い、一旦開催を延期し、10月開催となっております。広域処理になりますと、先ほど御宿から説明がありましたように、本市では燃やすごみの焼却処理は行わず、神戸市の焼却施設にごみを運搬し焼却することとなります。よって本市では焼却施設の整備は行わないのですが、収集したごみを貯留し、運搬車両に積み込みを行う運搬中継施設を整備することとなります。

なお、資源化物である缶、瓶、ペットボトル、また燃やさないごみ、粗大ごみの処理は本市で行うため、必要な整備は行うこととなります。

議題についてはこれまでに完了している検討項目や計画策定スケジュールの修正、先ほどお伝えさせていただいたスケジュールの修正や追加等を予定しております。

これまでこの基本計画の策定完了は、令和6年度末としておりましたが、1年の延長を考えているところです。

説明は以上になります。

(井上会長)

はい、今の御説明、どうですか。何か御質問等。山口さん、どうぞ。

(山口委員)

はい、山口です。

誠に私の勉強不足で申し訳ないですけど、私の友人がこの検討委員会、3名ぐらい入っているんですけども、その2人は全く新しく入っていて、僕に、何するところ？という質問がありました。僕もこの審議会と検討委員会の関係がよく分かんないんです。これだけ厚い資料を、昨日、一生懸命読んだんですけど、よく分からないんです。審議会と検討委員会で何をどうすればいいのか全く分からないので、申し訳ないんですけどどういう関係にあるのか、また検討委員会は何をしているのかを教えてくださいませんか。

(井上会長)

はい。お願いします。

(事務局 尾川)

環境施設課、尾川です。よろしくお願いします。

この資料、かなり多いものになりまして分かりにくかったと思いますけども、今、荒木から説明があったこの資料に関しましては、今まで、芦屋市単独で焼却施設と資源化施設を建てるという構想の下に今まで検討してまいりました。これは今年の3月の会議の報告をさせていただいております。よって広域化としていない状態、焼却施設と資源化施設を建てるための説明、この審議会、あと地元住民の方との運営協議会に報告をさせていただいて、意見をいただいて進めていくというような形になっております。

ただ、この6月に市長が申しましたように、神戸市との広域化を進めるための検討をする形になりましたので、今まで焼却施設を建てるということが運搬中継施設を建てるという計画に変わりました。よって検討委員会は焼却施設だけではなくて、運搬中継施設の検討も行い、かつ1年延ばして、今まで令和4・5・6年の3か年で行うとしてまいりましたが、7年度も含めて4年間で計画を立てようとしています。

山口委員がおっしゃっています審議会とこの委員会の関係ですが、施設整備基本計画検討委員会というのは、芦屋市で、この施設をどうするのか。この焼却炉は平成8年に建てまして老朽化が進んでおります。その状態でこれから将来どうするのかということ、第一として新しい焼却炉を建てることで進めてまいりました。それが今、変わりましたという形で、審議会との関係性というのは、報告して意見の聴取を行いながら、この計画を並行して進めていくというような形になります。

説明としては以上です。

(井上会長)

この処理センター施設整備で第1回が令和4年8月4日にされました。そして第8回まで行きました。これは主に新しい施設をどうするかという話で、建てるにしても、どの業者にするか、そういう話でした。それがもう全部無駄になったという話ですか。

(事務局 尾川)

全部使えなくなったわけではなくて、資源化施設というのは神戸市と広域化になっても資源化施設は芦屋市で建てます。旧施設は取り壊さないと建てられません。あと、審議会でも意見いただいておりますが、多面的価値として、焼却施設・資源化施設を建てる時には、その住民の方に何か供与できるような施設、環境学習であったり、焼却炉もあればその発電したエネルギーを使って何かをすとかなど、検討してきたことは生かせるので、全部が使えなくなったというわけではなくて、少し修正が必要になったということです。

(井上会長)

新たに中継施設が加わったということですね。

(事務局 尾川)

そういうことです、はい。

(井上会長)

何か御質問ありますか、いかがでございますか。法兼さん。

(法兼委員)

前回のこの会議のときに、まだ神戸市にごみを持っていくというのは決まっていなかった段階で、たしかこの建て替えの案が2つ、A案とB案みたいな形でどういうふうな施設になりますという御説明があったと思いますけれども、神戸市に焼却を依頼するとなると、運ぶまでに一旦ごみをプールするような施設ができるという形に変わっていくのでしょうか。それとも全て設計からもう一度やり直すという形になるのでしょうか。

(事務局 尾川)

この前、説明させていただいたのは、焼却施設と資源化施設を合棟として、1つの施設で行うという説明をさせていただきました。

(法兼委員)

合棟か別棟かね。

(事務局 尾川)

はい。今回、その中継施設と資源化施設の合棟にするのか、もしくは今の既存の焼却炉を利用して中継施設を造ることもできますので、それも含めてどういう形にしたら効率・運搬効率もよく、運営費も安くて、運営費・建設費も安くてということになるのか。あと多面的価値の面積をどの程度取れるのかということも含めて検討していきます。法兼委員の言われた、焼却施設の代わりに中継施設を同じ場所に建てるというのも1つの案でございます。ただ、それに関しましてもこれから検討委員の皆様で10月3日開催の委員会で検討していくこととなります。

(法兼委員)

また一からですね。

(事務局 尾川)

はい。

(井上会長)

これね、神戸市の議会と、この芦屋の議会でね、ごみを神戸に持っていくというね、それを議会に通さないとだめです。それはいつの議会でやるんですか。

(事務局 大上)

ちょうどこの9月に本会議というのがあるんですが、本会議、市議会というのがある、そこで私どものほうから今、検討を進めている事項についてテーマを決めて御報告する機会がございます。それをここまで定期的にやってまして、ここまでは芦屋はこう考えてます。でも相手様があることなので、なかなか決定というところまでいかない、難しいですよというふうなお話ししていたかと思うんですが、このたびのこの9月の芦屋市の議会の委員会で、今ちょうど御報告差し上げたものができたので、一応、神戸市さんと芦屋市で行政レベルで考え方のすり合わせができましたと、ここまでこぎつけました、ようやくということで御報告させていただいたところなんです。

同時に市民の方にも広く知っていただきたいということで、このパブリックコメント、市民意見の募集というのを今やっています。この市民の方からの御質問にお答えしたり、御意見をいただいたものを、神戸市さんも今これ9月議会で、昨日同じように議会があって、同じように説明されてるんですね、同じようにパブリックコメントをやると。両市でそれぞれ市民の方に向けた市民意見募集をやった後、取りまとめて、12月ぐらいに取りまとめたものを御報告するとともに、早ければ今年度中、スケジュールに記載していますように、今年度中、この3月議会というのも、2月ぐらいに委員会あるんですが、そのぐらいのタイミングで早ければ今度、両市で協定書という契約書に類するものを同時に議会に出して、議決いただくタイミングがあります。そこで御意見いただいたり、賛成、反対ということで、両市ともに議会で議決を得られれば、それを基に最終的には両市長で調印するような形で進めていきますと決定になります。

そうして初めてこれまで進めてきたこの処理センターの施設整備計画も、今、2本立てですが、煙突立てるための計画はこのように今報告したようにある程度できています。本当にもう神戸市との広域が決定すれば、中継施設の具体的な整備計画はもっと明らかになりますということで、その最終取りまとめが来年もう一年いただいて、どちらかの計画が出来上がりますという感じになっています。

(橋本委員)

すみません、まだごみは神戸で広域処理をしてないわけですか、ここでやってるんですか。

(事務局 永田)

今はそうです。

(事務局 御宿)

私の説明、漏れていた部分があるんですけど、このチラシの2枚めくっていただきました裏面、2ページの5、広域処理開始までのスケジュール案に記載しているところが先ほど大上が申しましたスケジュールを記載しております。これは主に広域連携を前提としたスケジュールになっています。令和7年2月、ここで2市間の協議書に関する議案の審議と書いてありますが、両市において議案をそれぞれの議会に提出する流れになっております。そこで審議が通りましたら市長同士の調印をするというところが2市間協議書締結という記載になります。

以上です。

(井上会長)

はい、ありがとうございました。そういうことですね。

何か御質問等ありましたら、よろしいですかね。

ほか、何かあったら、この機会に言っと思ってください、よろしいですか。桑田委員、どうぞ。

(桑田委員)

今、お手元の資料に書いてあることでしたし、別に質問というのはこれといってはまだ。大きくは、先ほどのこの施設のことなんかは、もう別の委員会の中で、審議チームの方でやっていただくので、我々はこの審議会としてはもう少し大きい目で芦屋市全体のごみをどうやって減らしていきますか。また、減らすだけじゃなくてリサイクルをどういうふうに進進をしていきますかの方針を決める審議会なので、細かい建物のことまで、芦屋が別棟建てるのか、そんなことはまた違う分野になりますので。もっと言ったら、それをどちらにするのかという、どちらでも対応できるように、今、2つの案をずっと環境行政

の方は1つの仕事でいいはずが2つやっただけなんです、どっちか分からんから、どっちもしたかなあかんという、大変な御苦勞をかけてるわけなので、そこに関して、我々、素人がどうこう言うというんじゃなくて、我々はもう少し俯瞰した位置で、廃棄物減量等推進審議会ですので、ごみを減らしていくかを意見が出せればということなんです。

私と皆さんとで意見が違う点が1点ありました。私は商売人代表して来ておりますので、ごみを減らせばいいというものではないんですね。我々、商売人が繁盛する、経済が活発になれば当然ごみは増えます。先ほど言った缶、瓶、ペットボトルなんかでも飲食店の方とかが景気が良くなれば、たくさんお客さんが見えになればごみが増えます。なので、この目標からは相反する、これ、我々、商売人の目標なんで、ケーキ屋さんがいっぱいケーキを作れば、小麦粉の紙袋がたくさん増えます、イチゴのヘタがたくさん増えます。なので、商売人目線で言うとごみを減らすというのはあまり好ましくないんですね。ただ、いかに増えたごみをきっちり分別して、リサイクルに回せるものは回していく。

ここで難しいのが、我々商売人はお金を払って、産廃業者にお金を払ってごみを処理してもらってます。なので、これをどう自治体とか行政と連携して行って、先ほどおっしゃったように、自治会の集団回収に、本当は駄目なんでしょう、多分条例的には多分、事業系ごみは事業系ごみの業者に渡してとなるんですが、例えば私みたいに下が店で、上が家みたいな一般の小さな店は、家庭ごみは家庭のごみに出して、店のごみは店のごみで出すんですが、例えばいろんな会議に出ますと、こういう紙の資料があったりとか、各メーカーが送ってくるチラシ、パンフレット、また商品の搬入に関わる入荷に伴う段ボールみたいなのを本当は事業系ごみで出したほうが条例どおりだけど、リサイクルのこと考えてとか、もっと言うと集団回収、自治会のこと考えると、そっちに出してあげたほうがプラスになるのかなって。多分ここが周知あまりされてないんですね。我々、商売人もあまり理解進んでなくて。なので、家庭ごみに出したらあかんと思ってる人もいれば、逆に事業系ごみに出さないで、そのまま家庭ごみに出している人もいらっしゃる。なので、この辺の情報周知をもう少し、多分、三者で連携して、行政と我々商売人と自治会などの審議で情報共有すれば、もう少しリサイクル率が上がるのかなと。ごみの量は減らしながら、でもリサイクル率を上げていければという視点を持っております。

なので、行政に一言言いたい。資料にもありました、ごみのアプリ、私も先ほど検索してみました、「芦屋市 ごみ」とか、「ごみ アプリ」、1つもヒットしません。ようよう調べていったら「さんあ〜る」というアプリが出たんですけども、芦屋市ごみアプリで広報しますと言うんやったら、横に「さんあ〜る」というアプリ名を追記するとか、QRコードですぐダウンロードできるようにするとかという一工夫していただいたほうが、我々若い世代はすぐに検索します。アプリもすぐ調べて。でも、結構見つからなかったんで、もう少し見つけやすいように、ちゃんと「さんあ〜る」ってアプリでやっていますよという告知をこういうチラシや書類にもしっかりと記入するように努めていただければ、より理解力が極まるのかなと思います。実際に今、私、インストールしてみましたけども、でも言うてもごみカレンダー出てくるだけなんで、そんなにやなって思いながら、どんなふうに使われるかな、これというちょっと疑問は残りまして、これはまた別の話ですね。

私からは以上です。

(井上会長)

ありがとうございました。

事業者というかな、お商売してる方が、資源ごみをこちらの自治会のほうに出したらいいんじゃないかという話なんですか。

(桑田委員)

そうですね。出せば多分店舗ももうかるし、私たちも、お支払いする料金はごみの量によって変わるので、減りますので、私もうれしい。

(井上会長)

いいと言えるんですか、永田さん、どうなの？これ。

(桑田委員)

難しいとこやと思うんです。

(事務局 永田)

今言えるとしたら難しいというところですね。何で難しいかというのは、1つは地域とそのお店の関係性というのがなかなか難しい問題で、例えばマンションでお商売されてる方が、そのマンションの管理組合によって、いいのかどうかというところもあつたりしますので、やはりふだんからきちんと地域活動も貢献されてるようなお店もたくさんありますので、そういったお店とか、ふだんから例えばお店の前に車がいっぱい止まってても何もしてくれないとかで、地域とね、ありますので、なかなか難しいところあるんです。ただ、おっしゃるとおりで、事業系ごみも含めてが芦屋市のごみになってきますし、まず、ここは大きな点で考えていただく場になりますので、それこそプラスチックの分別をどうするかはここで決めていただいて、そのプラスチックを実際、じゃあどういう方法で処理するとか、どういうスペースが要るのかとか、そういった専門的などは別の委員会で決めていただくというようなところが基本的な流れになります。

事業系につきましては本当にそのとおりで、ですから前回の計画をつくるときも、実際に桑田さんとか、コープさんは担当が替わりましたけども、以前の方とかに来ていただいて、事業者の方はいろんな商売をするので、1つの指定ごみ袋でなかなか厚みとかも難しいと。そうじゃなくて、中身が見える袋で分別を推進したほうがいいんじゃないかということで、実際、事業系の燃やさないごみ、資源ごみに関しては25%アップという形で、やっぱり中身が見えることで分別意識が進んで、そういったところも出てますので、ですから今後、ちょっとどういったことができるのかにつきましては、家庭のごみ、事業者のごみ含めて。

よく我々、どうしてもごみを減らす、減らすと言ってしまうんですけど、基本は燃やすごみを減らすです。どうしてもそこはやっぱり、あくまでもごみを減らしましょうという形は一般に見れば8割は燃やすごみになりますので、どうしてもごみを減らすという表現にはなりますが、もともと考えてたのは、燃やすごみに入ってる紙とかプラスチックとか、ペットボトルとか、それをちゃんと分別してくれば燃やすごみは減りますよね、資源にリサイクルできます、増えますよねということになってきますので、その考え方はずっと変わらないものになりますので。ですから、今後も事業者の方も含めて資源化の促進ということで、リサイクル率ともつながってくるとこありますので、そういったところは今後もテーマとしてやっていきたいと思えます。

アプリにつきましては、確かに「さんあ〜る」のところです、もうちょっと広告できたらということと、あのアプリは使うと結構ほかにもいいところがいっぱいあるので、もう少し桑田委員にも使っていただいたら、いいところが出てくると思えますので、ぜひごみの分別がすぐに分かるようになってたりとか、先ほど言ったとおりプッシュアップ通知で、それは緊急のときとかも全部分かるように、こちらから発信ができるようになっていましてもう少しアプリにつきましても進めていけたらなと思っております。

(井上会長)

はい、ありがとうございました。

そしたらどうですか、今日初めて来られました橋本委員、何かございましたらどうぞ。

(橋本委員)

まだよく分からないので質問は分かりませんが、資源ごみなんか、今まで言われてた缶とかね、40円が60円になってるんですよ。物すごい喜んでるんです、自治会としてはね。それでみんなに出していただくようにしているんですけど、前は取りに来てたというように人もおられて、男の人が見張ってくれて、ちょっと注意してくれたんですよ。それからうち、今のところそんなにないと思います。だから、いや、今聞いて、そんなとこ、まだあるのかなと思って、自転車に物すごい積んで、行ったのをね、男性の方たち、みんなちょっと見張ってくれて、ちょっと注意してくださったら、うちにはあまり来てないと思いますよ。

(井上会長)

ありがとうございました。

ほか、何かありますか。千田副会長、まとめていただけますか。

(千田副会長)

広域の話が出てきましたが、今までの議論は無駄にはならないとは思いますが、大変だと思いますけど、芦屋のためにうまく進めばいいなと思います。

個人的にアプリが興味津々で。プッシュアップ通知は、今日、ごみの日ですよとか、今日、燃えるごみと缶のごみとか、それもプッシュしてくれるんですか。すばらしいと思います。

(井上会長)

よろしいですか。その他について事務局から説明お願いできますか。

(事務局 永田)

今回、その他につきましてはございません。

(井上会長)

どうもありがとうございました。

それではですね、今日の議事は全部終わりましたので、これで終了させていただきたいと思っております。

では、今後の日程の説明ですね、お願いできますか。

(事務局 永田)

今後の審議会の日程ですが、次回は来年2月、令和7年2月に予定しております。また日程のは調整して連絡させていただきますので、御出席いただきますようによろしくお願いいたします。

(井上会長)

本日の第1回芦屋市廃棄物減量等推進審議会、これで閉会とさせていただきます。皆様、暑い中、来ていただきましてありがとうございました。次回もよろしく申し上げます。

以上